

ごあいさつ

働く人とその家族の生活基盤を支えるために、
福祉金融機関としての『真価』の発揮に取り組めます。



平素より、私ども静岡県労働金庫をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

当金庫の事業の状況をご案内するため、ディスクロージャー誌「静岡ろうきんレポート」を作成いたしました。多くの皆さまにご覧いただき、当金庫に対するご理解を一層深めていただければ幸いです。

2019年度は、2018年度からスタートした第3期中期計画（2018-2020年度）『真価』の中間年度として、「初年度の成果を受け継ぎながら着実に活動を進展、定着させることで、中期計画3か年の目標達成を確かなものにする1年」と位置付け、働く人とその家族の“笑顔”のために会員とスクラムを組んで活動を展開しました。結果、預金・融資ともに目標を大きく上回る成果となりました。これもひとえに皆さまのご理解とご協力によるものであり、あらためて感謝申し上げます。

2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、日本のみならず世界的規模で人々の健康や生活、経済活動に暗い影を落とす幕開けとなりました。この間、医療現場や社会生活の維持に必要な業務に従事されてこられた皆さまに深く感謝の意を表すとともに、コロナ禍が一日でも早く終息することを切に願っております。

私どもく静岡ろうきんをはじめとして、全国13の（ろうきん）では、コロナ禍による収入減少や離職を余儀なくされた方に向けて、既存のお借入れのご返済条件の見直しや、「勤労者生活支援特別融資」

をご提供することにより、勤労者の生活支援に取り組んでおります。また、社会福祉協議会が取扱う「緊急小口資金」の取次業務にもいち早く取り組み、多くの方々の生活資金ニーズにお応えしました。こうした金融面からのサポートを通じて、困っている方々のお役に立つことこそが（ろうきん）の存在意義であると役職員一同あらためて認識しているところです。

金融機関を取り巻く環境は、コロナ禍に加え低金利環境の長期化等、厳しさを増すばかりですが、（ろうきん）は、働く人とその家族の生活基盤を支えるために、福祉金融機関として『真価』の発揮に取り組んでまいります。

そして、2020年度は中期計画『真価』の最終年度、総仕上げの1年となります。この2年間の取り組みをさらに発展させ、次期中期計画につなげる1年と位置付け、刻々と変化する社会環境やデジタル化の進展、新型コロナ後の新たな生活様式等の環境変化を意識しつつ、更なる深化・進化を追求します。

今後も役職員が一丸となり、今まで以上に皆さまのお役に立てるよう努めてまいりますので、引き続き変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2020年7月

理事長

古川 正明